令和５年度 第１回 中和地区３市１町障害者自立支援協議会 就労支援部会　議事録

日　　時：令和５年５月１８日（木）　１４時～１６時１０分
場　　所：香芝市役所２階・大会議室南
出席団体：大和高田市・香芝市・葛城市・広陵町・ハローワーク大和高田・
大淀養護学校・奈良県高等養護学校・生活支援センターブリッジ・しぇ～く・
葛城市社会福祉協議会・おかわり・高田園・えいぶる・圏域マネージャー・
アカデミア高田・Ｄ－ＰＯＲＴ・障害者職業センター・えん高田駅前作業所

①会長挨拶

②参加者挨拶

③今年度の取組予定について

【部会長より説明】

●昨年度の活動の振り返り

●今年度の部会目的の確認

・誰もが主体的にチャレンジできる仕組み作り。（就労支援の可視化）
・企業理解を把握し、福祉側として担える役割を整理し、連携強化を図る。

●就労支援の入口の仕組み作り

・福祉事業所体験の開催（各市町で、年４回）
⇒７月～２月までの期間で開催予定。
・行政実習（年間随時実施）
⇒行政実習の可視化（当事者・関係機関・地域・企業などに取り組みを発信＜広報など＞）
⇒年間スケジュールの意識（各課でどの時期に受け入れが可能か、どのような内容なのか）
・就労支援の連携強化について（ニーズアセスメントなど）
⇒それぞれの支援機関の視点、企業側の視点などを共有。
・事例発表（福祉事業所→一般就労）
⇒実際の事例を通して、各支援機関の立場の視点を踏まえて意見交換を行う。

●就労支援の出口の仕組み作り

・企業との意見交換会（年２回）
⇒ブリッジ・ハローワーク・障害者職業センター・各市町の商工担当課などを通じて、周知・参加を募る。
・企業見学（年１～２回）
⇒地域中小企業（３市１町内にある企業で検討）
⇒同じ人口比率、地域性が似ている地域の自立支援協議会との意見交換。
・当事者実践報告（長年企業で働いている障害のあるかたからの報告など）

●啓発・周知

・ホームページにて部会の取り組みの情報発信を推進。
→活動方針や実際の活動など、写真も交えて周知。まずは、障がいのある方・支援機関の

方に知ってもらう。

●福祉事業所×地域企業交流イベント（案）

・福祉事業所×地域企業コラボイベントを通して、障がい者理解の周知・発信を図る。

・目的：福祉事業所と地域企業との交流を通して相互理解を深め、多様な働き方や地域産業の今後について一緒に考えるきっかけとしての機会。
地域の誰もが参加出来て楽しんでもらえるイベントを通して、障害のある方そうでない方も相互理解を図り身近に感じてもらう機会。

・内容

香芝市出身の元日本代表 GK の楢崎正剛氏に講演依頼。

講演テーマ　「人を育てること」

福祉、企業、スポーツ、どの分野でも共通のテーマといえるのが「人を育てる」こと。

楢崎選手を講演依頼した経緯として、

・こどもの育成（アカデミーコーチ）

・大人の育成（トップチームコーチ）

・クラブチーム、日本代表での人をまとめ上げるリーダーシップ

・海外選手を含む多くの選手などと、多様性を理解したコミュニケーション力　など

経験値や所属する名古屋グランパスの取り組みとしても「地域活性化」「こどもの育成」などに力を入れておられ、福祉や地域企業の方にとっても学ぶべき経験を持っておられる方だと考え講演依頼を検討。

【意見交換等】

●体験会

〇葛城市・広陵町での開催について。

・公共施設は駅から遠く、交通アクセスが課題。駐車場は有る。

・周知方法は、広報・チラシを活用する。

・１回目を夏休みの時期に設定できるか。

→可能かどうか各市町に確認いただく。

〇事業所意見など

・物販は可能か。

→基本は体験会が中心だが、要検討。施設ルールとの兼ね合いもある。

・Ｗｉ－Ｆｉはあるのか。

→広陵町はある。葛城市のゆうあいステーションにもある。

・昨年度の体験会の来場者で、利用につながったかたはいらっしゃるか。

→数名いらっしゃると報告を受けている。

・物販があれば、事業所の成果物を持ち帰り、来場していない者にモノで伝える手段になりうる。

・年に４回実施する意図は。

→各市町で１回ずつ実施することで、「傾向」や「続けることでの効果」が見えてくるのではないかと期待する。事業所の負担もあるので毎回参加できなくてもよいと考える。

→来場者が当事者なのか、家族なのか、支援者なのか、どういうかたが来られたのかを把

握・整理することで、内容をより充実させていけるのではないか。
・スケジュールがタイトなので、開催が決まれば早めに知らせてほしい。

⇒まとめ：年４回で実施していく。なお、事業所の負担を考慮し、毎回の参加を求めるものではない。

●その他
〇今年度の取り組みのスケジュールがタイト過ぎないか。実行できるのか心配。
→あくまでも案であり、この通りにはならないかもしれないので、やっていきながら調整していく。

④その他
●部会の構成メンバーについて
【課題】
現メンバーの３１事業所は、日ごろの業務の中でのつながりからの声掛け。課題として、メンバーの固定化を懸念。新たに全体会などで関心をもっていただいた事業所に参加いただいてもよいか。自己の利益のためだけに参加される事業素ではなく、部会の目的に賛同していただける事業所であれば、参加いただいてもよいのではないか。
【意見】
・会員が増え過ぎることで、全体の統制が取りにくくなるのではないか。そうなった場合に、分科会を作るとか、相談支援部会のように２層化するという方法があるかもしれないが、まだその段階ではないのではないか。今のところ未参加の事業所が２０事業所程度あるので、全てに声を掛けていくのではなく、全体会などいろいろな自立支援協議会の活動の中で興味をもって参加したいと手を挙げてくれた事業所から受け入れていけばよいのではないか。
・そもそも就労支援部会とは何をするところなのか。
→基本的には、いろいろな関係機関のかたと一緒に、就労支援に関する課題をくみ上げながら、地域の中での仕組みや取り組みが障がいのある人にとってプラスになるように考えていく場と考える。昨年度は、障がいのある人にとってサービスなどのプロセスが見えにくかったり、事業所を選択する際に決めきれない状況があったので、そういったところの整理に取り組んできた。
（事業所としての参加目的と、部会の目的は一致しているか？）
→就労に関する支援について、１事業所だと引き出しが限られるので、他機関のかたといろいろな視点で話ができればと思っていたが、会議で出された案をただ聞いて帰るだけで、活発な意見が出るわけでもなく、毎回会議が終わっていくようなところに疑問を感じる。新しいメンバーを増やす前に、部会の活性化を考える必要があるのではないか。
・これからいろいろな事業所に声を掛けていくのがよいのか、それとも関係性を築いた上で同じ方向を向いていくことができる事業所だけに参加していただくのがよいのか。事業所がたくさん集まれば、いろいろな価値観で意見を聴けるのでよいのかと思うが、段階を追ってということであれば今のスタイルも１つなのではないか。昨年度の取り組みは部会としての広報でもあったかと思うので、今後も活動をこつこつと続けていくこと

で興味を持っていただける事業所が増えていくのではないか。

・事業所の参加範囲は、「相談支援部会」、「各市町連絡会」、「こども部会」も含めて自立支援協議会全体の課題になっている。たくさんの事業所が参加されるとテーマが定まらないということがある。地域のことを考えてくださる事業所に１箇所ずつ声をかけていただくのも１つの案だと思う。

・自立支援協議会の目的は、地域の関係者が課題を持って集まり、検討して形にしていくこと。場合により、県の自立支援協議会へ取り組みを提案していく場になっている。この就労支援部会としてどのようにしていくのかというのは、上部の運営委員会や事務局の会議に諮るのがよいのではないか。

また、全体会が昨年度に開催され、対面で自立支援協議会の取り組みを紹介し、興味を持っていただいた事業所もたくさんあったのではないか。今後、そういった事業所からの質問に答えられるようにしておいたほうがよいのではないか。

・多くの市町村で協議会の形骸化が課題になっているのではないか。何をするところなのかを問われるのは非常に大切なことだと思う。日々の仕事を踏まえた上で、さらに提案していく、意見交換するという意識を持った中で参加することが大切。

・一般企業への就労を部会のテーマとするのなら、参加したいところが参加するということでよいのではないか。

・事業所にとって就労につなげる為にはネットワークが必要であり、そのネットワークの中で協働して支援していく為にこの部会に参加している。そのことで、部会の繁栄ではなく、いかに利用者が安定して就職できるのかということが大切。部会に参加したいと考える事業所にはそれぞれのニーズがあって参加されるので、部会の案内をしておけばよいのではないか。

⇒まとめ：部会で事務局が提示する案はたたき台であり、会議の中で意見を出し合いながら練っていけるように、みんなで部会を運営していく。部会の構成メンバーについては、増やしていくことを目的にするのではなく、積極的に手が挙がった事業所に参加いただくこととする。（アンケートを用いて、今後の活動についての在り方や頻度について検討していく。）

以上